

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第 87 回

『「人物の意義」 ～ 真の機会 ～』

2021年12月12日（日曜日）の午後、定例の『東久留米がん哲学外来 in メディカル・カフェ』（東久留米市スペース105に於いて）に赴いた。筆者は、3組の個人面談を行い、そのあと、参加者とのカフェの時を持った。クリスマスの時期に因んで、『赤鼻のトナカイ』に触れながら「使命と役割」について語った。「使命と役割」は、「どうしたら見つかるのでしょうか？」との真摯な質問を受けた。大変貴重な時であった。Wifeとの記念写真も撮って下さった（画像）。早速、「樋野先生、今日も素晴らしい時間をありがとうございました。今年も一年間、先生の言葉の処方箋のおかげで無事に過ごせたことを心から感謝しております。来年も先生からの言葉を大切に、前向きに生きて行きたいと思っておりますので、どうぞ宜しくお願い致します。今年一年いろいろお世話になり本当にありがとうございました。また来年お会い出来るのを楽しみにしていますね。」との愛情溢れるメールを頂いた。涙無くして語れない！

『東久留米がん哲学外来 in メディカル・カフェ』の後、同じ会場での定例の読書会を参加した。今回は、内村鑑三著の『代表的日本人』（鈴木範之訳；岩波文庫）の『西郷隆盛』の「6：生活と人生観」の箇所であった。西郷隆盛（1828-1877）は、「まるで子供みたいに無頓着で無邪気でした」とある。『「常に策動をはかるものは、危機が迫るとき無策です。」、「機会には二種ある。—— 真の機会は、時勢に応じ理にかなって我々の行動するとき訪れるものである。大事なときには、機会は我々が作り出さなければならない。」——、まず「人物」であります。——、次が手段のはたらきである。」』。まさに、「明瞭なヴィジョン」&「人物の意義」の学びである。西郷隆盛は、「赤ん坊の無垢な精神の象徴＝敬天愛人の思想」の持ち主である。終了後は、夕食の時をもった。本当に充実した1日であった。

